

【特別企画】

# 谷内 亮太 選手 インタビュー

## 金沢西高校から初のプロ野球選手誕生

昨年の12月4日、ホテル日航金沢に於いて、プロ野球ドラフト会議で東京ヤクルトスワローズから6位指名を受けた谷内亮太選手の激励会が、金沢西高校野球部OB会の主催により催されました。会場には学校関係者や同窓生ら約150人が集い、母校初のプロ野球選手となる谷内選手の門出を祝福、エールを贈りました。同窓会では谷内選手にインタビューをお願いしたところ、高校時代の思い出や現在の心境などを語っていただきました。(インタビュアー：8期生 澤田 幸宏)

**澤田** 西高が野球で優勝するというのは大変な話ですよ。

**谷内** そうですね。

**澤田** そのときは選手でしたか。

**谷内** 2008年春の県大会で初優勝したときは、自分は3年生でキャプテンです。

**澤田** 2011年秋の北信越県大会での優勝が2回目ですか。

**谷内** そうです。一番最近が2011年の秋です。そのときは自分はもう卒業していますね。

**澤田** 1回目の優勝のときに電話がかかってきて、「西高が勝ったんだって」「何ですか?」「優勝した」と。星稜や遊学館がいるのに、なぜ西高が勝つのだと。あの試合はなぜ勝ったのでしょうか。

**谷内** あのときは、正直、運も味方に付いていたのかなとは思いますが。

**澤田** 向こうはレギュラーですか。

**谷内** もうバンバンにレギュラーです。

**澤田** バンバンにレギュラーだったんですね(笑)。西高は、谷内さんはすごいにしても、他にもすごいメンバーはいたのですか。

**谷内** 大学で続けたメンバーはいませんが、他から比べたら結構そろっていたと思います。

**澤田** なるほど。先ほどもお聞きしましたが、なぜ西高が優勝できたかという秘訣を。

**谷内** そうですね。あの当時は本当にチームワークだと思います。

**澤田** チームをつくるのはキャプテンの仕事なので、リーダーである谷内さんはどういう思いでチームをつかっていったのですか。どういった方針だったのでしょうか。

**谷内** 自分の場合は、常に前向きに戦える環境をつくったつもりです。あとは、当時のメンバーはすごく個性が強く、力もありましたし、メンバーが力を出しやすい環境を自分がつくってあげて意識していました。

**澤田** 西高の生徒というのは、正直言って西高に行った理由は「なんとなく」が多いのですね。

**谷内** ああ、そうですね(笑)。

**澤田** 谷内さんからアドバイスをいただければ。

**谷内** そうですね、自分も本当に同じ感じなのですが、大学で最後キャプテンもして、最終的にミスがあっても勝つように仕向けるというのが、自分の中で1つ意識し

ているところで、試合の途中で幾つミスはあると思うのですが、それを反省するのは試合が終わった後で、今一番やらなければいけないことをその試合では続けてやっていこう、最終的に勝ちに持っていければその試合は問題ないのだからという意識でやっています。

**澤田** 西高は練習施設がすごく乏しいでしょう。ナイターもできるんですけど。

**谷内** 一応(電気は)つきます(笑)。

**澤田** 練習量は多かったのですか。

**谷内** 練習量は自分たちで確保したところがあります。正直、全体の練習時間は限られていますし、それ以外のところで各自がどれだけ練習するかという意識は、自分たちの代はすごく高かったなと思います。

**澤田** 各自というのは学校外で。

**谷内** 基本的には学校内です。ベーシックな練習ですけども、ティーバッティングしかり、キャッチボールしかり、ロングティーしかり、やはり単純な練習を数多く平然とこなせていたのが自分たちの代のメンバーかなと思います。

**澤田** そのとき野球部は何人くらいいましたか。

**谷内** 3年生は20人弱です。17人。下が多かったんで、そうですね、70人いないくらいですかね。

**澤田** 西高はその厳しさというのはどうなのですか。

**谷内** 多分、私立のような厳しさはないと思います。だからといって別にお気楽で、仲良し集団でやっているわけではないですし、西高生に合った良い緊張感でやっているのではないかなと思います。

**澤田** あのとき、先生はどなたでしたっけ。

**谷内** 井村(茂雄)先生です。

**澤田** 井村先生の教育の方針はどうですか。

**谷内** スパルタではないです。そんなに厳しく怒鳴るような先生ではないので。特に自分たちの代は、本当にやりやすくやらせてもらったというのが一番ですね。



谷内 亮太 選手